

冬季におけるスプレーギク切り花のボリュームアップ

[研究のねらい]

和歌山県における冬季のスプレーギク生産では、切り花のボリュームが低下し、高値が期待できる2L規格の出荷本数が少なくなることが大きな問題となっています。そこで、冬季におけるスプレーギク切り花のボリュームアップに關与する要因を明らかにします。

[研究の成果]

- ①坪当たりの定植本数が160本以上の密植栽培（無摘心栽培）では、株間の生育に不揃いが生じるとともに切り花のボリュームが低下します。定植本数としては、坪当たり130本程度を目安とします（表1）。
- ②短日処理開始時の草丈は開花時の切り花の品質に大きな影響を及ぼし、草丈が長くなるほど切り花のボリュームは向上し、開花輪数が増加します。短日処理開始時には40cm前後の草丈を確保することが必要です。
- ③定植時にはできるだけ太くて重い苗を揃えて植え付けると、株間の生育に不揃いが生じにくく、ボリュームのある切り花が得られやすくなります（図1）。

[成果の活用面・留意点]

- ①本成果は冬季におけるスプレーギク生産の適切な栽培管理（栽植密度、短日処理開始時のタイミングなど）の指針となります。

表1 栽植密度と2月咲きスプレーギクの切り花品質

栽植密度	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	調整重 (g)	茎径 (mm)	輪数 (輪)
108本/坪	118.0	96.1	61.3	5.6	11.7
134本/坪	116.9	99.0	64.3	6.2	11.3
161本/坪	108.9	82.7	57.2	5.5	10.1

品 種:「プラチナ」

調整重: 切り花を80cmに調整した後、基部から20cmまでの葉を取り除いたときの重さ

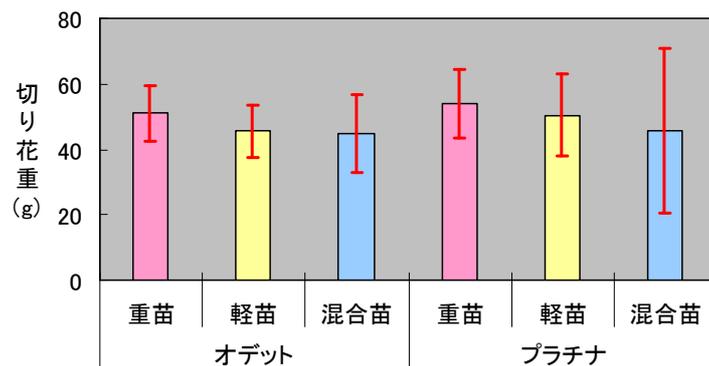


図1 定植時の苗質と2月咲きスプレーギクの切り花重との関係

挿し穂の重さを測定し2階級(重、軽)に分類した後、次の通り苗質を設定し定植した。重苗: 重い苗のみ定植、軽苗: 軽い苗のみ定植、混合苗: 重い苗と軽い苗を等量ずつ混合して定植。グラフ内の赤線は標準偏差。

実施年度: 平成16~18年度

担当者: 島 浩二・矢部泰弘・川西孝秀